様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年　４月１１日現在

機関番号：１０１０１
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2008～2010
課題番号：２０７３０１１３
研究課題名（和文）　構成主義的政策分析による国際宇宙プログラムの分析

研究課題名（英文）　Analysis of International Space Programme based on constructivist policy analysis

研究代表者
鈴木　一人　（SUZUKI KAZUTO）
北海道大学・大学院公共政策学連携研究部・准教授
研究者番号：６０３３４０２５

研究成果の概要（和文）：本研究では、これまで国際政治学で扱われてこなかった宇宙開発の国際協力に関し、最新の国際政治理論動向を踏まえた上で、新たな分析枠組みを構築する。また、国際プロジェクトへの協力に関する分析を行うことで、今後の日本の宇宙開発政策の方向性に関する提言を行い、各国の政策を分析することで、日本がどのような対外的な政策を展開すべきかについての視角を提供することを目的とする。

研究成果の概要（英文）：This research aims at developing new analytical framework for understanding international cooperation on space program, of which the study of international relations has neglected. Also, through the analysis of international cooperation on space program, this research will provide constructive policy proposals. Furthermore, the analysis of other national space programs would provide new insights for the development of Japanese space policy.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総　計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：政治学・国際関係論
キーワード：
宇宙政策、国際協力、技術開発、国家戦略、政策論理、構成主義

１．研究開始当初の背景

2004 年のブッシュ大統領による月・火星への探査計画発表以来、宇宙開発を進める各国は、アメリカの計画に協力するのか、独自の計画を進めるべきか、それともアメリカ以外のパートナーと協力するか、といった政策的選択を迫られている。というのも、1980 年代から継続されている国際宇宙ステーションの活動の経験が、各国の国際宇宙プログラムへの参加を慎重にさせており、各国における政策の学習と国際協力に対する規範の変化をもたらしている。同時に、中国の有人宇宙飛行の成功やインドによる宇宙開発の推進、ロシアの宇宙開発の再出発は、これまで米欧と日本が中心となっていた国際宇宙プログラムのあり方を大きく変えることとなった。このような現状を踏まえ、国際宇宙開発プログラムをいかに進めるべきかを巡る研究が求められている。また、現在衆議院に「宇宙基本法」が上程され、この法案が成立すれば、

今後の日本における宇宙開発政策のあり方も大きく変化する時期にあり、これまで以上に宇宙開発政策を分析する枠組みが求められている。しかしながら、これまでの政治学分野において、宇宙開発政策の分析を行った研究は国際的に見ても少なく、まだ政策分析の決定的な研究は出されていない。そこで、本研究では、政策変化のダイナミズムを捉える構成主義的政策分析という手法に着目し、それによって、各国の政策変化を分析することが求められており、この研究に基づいた政策提言がなされることが不可欠である。

２．研究の目的

（1）国際政治学における宇宙開発政策の分析

これまで宇宙開発政策の研究は、多くの場合、歴史的な研究か、現状をまとめたものが多く、理論的な背景を持たないものが多かった。こうした研究に理論的な研究を加えることで、国際関係の中で宇宙開発政策がどのような意味を持っているのか、また国家の対外的政策にどのような影響を与えるのかを分析することで、国際政治学の研究の発展に貢献する。

（2）国際政治学における構成主義理論の実証

国際政治学において近年注目を集めている構成主義理論は、抽象的な議論が中心であり、実際の政策分析に応用されるケースが極めて少ない。本研究は、科研費基盤研究（B）での研究を踏まえ、抽象的な研究を実証分野に生かす枠組みを開発することで、今後の構成主義的政治理論の発展に貢献する。

（3）日本における「宇宙基本法」成立後の政策分析のあり方への提言

現在、国会で審議されている「宇宙基本法」は、これまでの日本における宇宙政策のあり方に一石を投じ、政策決定のあり方を大きく変える可能性を持っている。原案通り法律が成立すれば、新たに宇宙開発担当大臣が設けられ、宇宙開発戦略本部が設置されることになる。こうした新たな宇宙開発政策の意思決定システムが導入されることになれば、新たな日本の宇宙開発戦略のあり方が問われることとなる。そうした状況において、政治学・国際政治学の分野からの提言をするニーズは高まることと予想される。本研究は、そうした現実のニーズに答えるものとして、重要な社会的意義を持つと考えられる。

（4）国際宇宙開発プログラムに対する日本の対外的政策への貢献

本研究では、特に各国の宇宙開発政策において問題となっている国際プロジェクト、とりわけアメリカが進める月面基地、火星探査プログラムへの協力に関する分析を行うことで、今後の日本の宇宙開発政策の方向性に関する提言を行うだけでなく、各国の政策を分析することで、日本がどのような対外的な政策を展開すべきかについての視角を提供することを目的とする。

３．研究の方法

本研究を進める上でのユニークさとして、これまでの研究で培った研究者ネットワークの活用がある。国際宇宙アカデミーにおいて米国ミシシッピー大学のガブリノヴィッツ教授と協力し、宇宙プログラムの国際協力に関する概念の研究を提案し、本研究の基礎となる各国の国際協力への意識調査などを進めた。また、欧州で宇宙開発政策を研究しているフランス CNRS のスーベス＝ベルジェ研究員と共に日仏両国の宇宙政策での協力プロジェクトの評価を行う研究計画を進めている。また、米国ジョージ・ワシントン大学にてアメリカが提案した月・火星探査計画に対する各国の反応を研究しているログスドン教授に招かれ、米国にて共同研究ワークショップを行い、この機会を通じて、参加者との意見交換を行った。その他、ウィーンにある欧州宇宙政策研究所の研究者ネットワーク（ESPRIN）のメンバーとして、そのネットワークを活用して、カナダ、ドイツ、ロシアなどに点在する研究者との協力も進めていく計画を立てている。加えて、これまでの活動で培った日本の宇宙航空研究開発機構、文部科学省、経済産業省の実務家とのネットワークを通じて、日本の実務家との意見交換を行い、日本の国際宇宙プログラムに対する姿勢や方向性についての聞き取りを行う計画をしている。これらの国内的・国際的なネットワークと共同研究を基礎に、国際宇宙プログラムの現状分析、ならびに各国の意識調査を中心にデータを収集する。そのため、国際会議への出席や、国内外の研究者・実務家との意見交換などを中心に行う。また、そのための関連図書の購入と、資料整理のための短期雇用の研究補助が必要となる。

４．研究成果

（1）国際政治学における宇宙開発政策の分析

本研究を通じて、宇宙開発政策を国際政治学として分析する研究として、2010 年度末に岩波書店から『宇宙開発と国際政治』という単著を出版し、本研究のまとめとした。ここでは、アメリカ、欧州、ロシア、中国、インド、日本の各国宇宙政策を「ハードパワーとしての宇宙システム」「ソフトパワーとしての宇宙システム」「社会インフラとしての宇宙システム」という三つの国際政治上の役割

に整理したうえで、冷戦期に始まった宇宙開発は、ハードパワー、ソフトパワーとして展開されてきたとはいえ、冷戦が終焉すると、各国間の競争が国際協力へとシフトし、「社会インフラ」としての機能が強化されていく状況を実証した。その結果、地上系のインフラが十分発達していない途上国において、「社会インフラ」としての宇宙システムの有用性が高まり、それが結果として、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国における国際協力を推進し、地域的な宇宙協力体制を生み出していることを明らかにした。また、宇宙空間はどの国家にも属さず、一つの国家で管理できる地理的空間ではないため、宇宙開発に携わり、宇宙システムを利用する国家は、すべからく協力して宇宙空間の持続的利用可能性を高めていくことが必然的な条件となってきていることを明らかにし、「グローバル・コモンズ」としての宇宙空間のガバナンスを通じた国際協力の枠組みが進んでいることを明らかにした。これは、ともすれば、国家間競争や国家間対立で語られてきた宇宙開発の国際政治の考え方に一石を投じ、これまでの国際政治学の中では見られなかった、国際協力のメカニズムを明らかにする研究となった。

(2) 国際政治学における構成主義理論の実証

本研究のもうひとつの目的である、構成主義を主体とした国際政治理論の再構築に関しては、比較政治学叢書として出版された小野耕二編『構成主義的政治理論と比較政治』の中に所収された「構成主義的政策決定過程分析としての「政策論理」」という論文で明らかにしたように、国際政治の基礎単位となる各国政府における政策決定が「政策論理」という概念で説明されることによって、各国の国内政治のダイナミクスが国際協力の可能性を変化させる変数であることを明らかにし、この国内政治のダイナミクスがどのような形で展開されることが国際協力を可能にするのか、ということを明らかにした。ここでは、各国が推進する宇宙開発の「政策論理」が科学、技術、安全保障、自律性、国家威信、財政の論理のうち、どれによって進められているのか、また、それが他国の進めている「政策論理」と共鳴する関係にあるのかどうか、ということを見出すことで、国際協力に参加する国々が安定的な国際協力制度を構築できるかどうかということを検討した。この研究から明らかになったことは、国際協力は単なる制度的な枠組みや利益の共通性ではなく、国内における政策推進を担う主体（政策決定者だけでなく、政策を推し進める圧力団体や職能団体）が、どのような論理で政策を進め、それらが他国と共有ないしは接合できる論理を持っているかどうか、ということに尽きるという点である。こうした、国内政治を国際政治へと転換する議論はこれまでもあったが、政策を推進する「論理」に着目して議論を進めるという枠組みは他には存在しておらず、その点で独自性のある研究が出来たといえる。

(3) 日本における「宇宙基本法」成立後の政策分析のあり方への提言

本研究のもうひとつの目的は、日本における政策分析のあり方への提言であるが、これは Is There a Space Race in Asia? Different Perceptions of Space (N.S. Sisodia and S. Kalyanaraman (eds.) *The Future of War and Peace in Asia*) や"Basic Law for Space Activities: A New Space Policy for Japan for the 21st Century" (Kai-Uwe Schrogl, *et al* (eds.) Yearbook on Space Policy 2006/2007, Springer, 2008)、それに" A brand new space policy or just papering over a political glitch? Japan's new space law in the making" *Space Policy*, Vol.24, no.4, 2008 などで明らかにしたように、主として英語論文として、国外に向けた情報発信を行い、日本の宇宙政策がどのように変化し、それがどこへ向かっていくのかを明らかにした。ここでは、日本の宇宙開発が、これまでの研究開発を中心とした宇宙開発から、利用を中心とした宇宙開発へと移行していく中で、新たな取り組みが進められていくと同時に、日本が対外的に果たす役割も強化されていくということを示した。

また、こうした研究を踏まえ、内閣官房の宇宙開発戦略本部専門調査会準天頂衛星推進検討ワーキンググループのメンバーとして、実際の政策形成に関与しただけでなく、独立行政法人宇宙航空研究開発機構の客員研究員や、三菱電機株式会社の政策立案のアドバイザーとしての役割も担い、官民を横断して政策決定に関与することとなった。

(4) 国際宇宙開発プログラムに対する日本の対外的政策への貢献

本研究では、国際協力における日本の役割にとどまらず、国際機関、とりわけ国連宇宙空間平和利用委員会の活動や、宇宙空間の国際的なガバナンスをめぐる研究に取り組んだ。その成果として"The Role of International Organisations for the Fair and Responsible Use of Space" (Wolfgang Rathgeber, Kai-Uwe Schrogl, and Ray Williamson (eds.) *The Fair and Responsible Use of Space: An International Perspective*)や、"Towards a United Nations Space Policy", *Space Policy*, Vol.26 no.1, 2010 などを発表した。

また、これに関連して、国連宇宙空間平和利用委員会本会議議長の Ciro Arevalo 大使（コロンビア）が設置したタスクフォースのメンバーとなり、「国連宇宙政策」の原案作りに協力し、国連総会において、この文書が採択されたことで、国連を主体とする宇宙政策のあり方の検討をスタートさせることが出来た。また、宇宙空間の持続的利用を可能にするための国際 NGO である Secure World Foundation のアドバイザリーグループ（運営諮問委員会）のメンバーとなり、宇宙ゴミ（スペースデブリ）に関する研究や各国宇宙政策の分析から得られた知見を生かした、グローバルな宇宙空間利用の活動にも関与することとなった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１０件）
①鈴木一人、「国家戦略」としての準天頂システム：GPS 依存のリスクを超えて、中央公論、査読無、2011 年 4 月号、2011 年 3 月、188－195
②鈴木一人、EU の宇宙政策－新たな宇宙開発のアクター、科学（岩波書店）、査読無、第 81 巻第 2 号、2011 年 2 月、170－171
③鈴木一人、『ボーダーフル』な世界で生まれる『ボーダーレス』な現象――欧州統合における『実態としての国境』と『制度としての国境』、国際政治、査読有、第 162 号、2010 年 12 月、1－15
④Ciro Arevalo-Yepes, Annette Froelich, Peter Martinez, Nicolas Peter, Kazuto Suzuki, The Need for a United Nations Space Policy, Space Policy, 査読有, Volume 26 Issue 1, 2010 年 2 月, 3-8
⑤ Kazuto Suzuki, EU As a "Regulatory Empire", 新世代法政策学研究, 査読無、第 2 号、2009 年 7 月、141-159
⑥鈴木一人、欧州連合の対テロ政策の枠組み、北大法学論集、査読無、第 60 巻第 2 号、2009 年 7 月、121-142
⑦鈴木一人、宇宙基本法と日本の宇宙開発の行方、電子情報通信学会誌、査読有、第 92 巻第 3 号、2009 年 3 月、224-228
⑧鈴木一人、宇宙開発と国際政治－「新しい政治」か「現在の延長か」、RATIO、査読無、第 6 号、2009 年 1 月、102-122
⑨Kazuto Suzuki, A brand new space policy or just papering over a political glitch? Japan's new space law in the making, Space Policy, 査読有, Volume 24 Issue 4, 2008 年 11 月, 171-174
⑩鈴木一人、軍事宇宙インフラにおける民間企業の役割、国際安全保障、査読有、第 36 巻第 2 号、2008 年 9 月、51-74

〔学会発表〕（計１４件）
①Kazuto Suzuki, Japan's View on Indian Military Space Capability, Space, Science and Security：The Role of Regional Expert Discussion, Observer Research Foundation (New Delhi, India), 2011 年 1 月 19 日
②Kazuto Suzuki, Models of International Politics for Protecting the Environment of Celestial Bodies, 61st International Astronautical Congress, Prague Convention Centre (Prague, Czech Republic), 2010 年 10 月 1 日
③Kazuto Suzuki, The Role and Power of East Asian Community in the Global Market: Can EAC set the Global Standard?, International Forum on Regional Integration in East Asia: With the European Historical Experience as Reference Point, Howard Plaza Hotel Taipei (Taipei, Taiwan), 2010 年 9 月 8 日
④Kazuto Suzuki, New US Space Policy: What is the Logic behind It, 11th Australian Space Development Conference (Lunch Talk Speaker), Hilton Adelaide (Adelaide, Australia), 2010 年 7 月 6 日
⑤ Kazuto Suzuki, Transformation of Japanese Space Policy, 11th Australian Space Development Conference, Hilton Adelaide (Adelaide, Australia), 2010 年 7 月 5 日
⑥Kazuto Suzuki, How to Engage Russia, India and China?, Improving Our Vision IV: Linkages and Opportunities, Immarsat HQ (London, UK), 2010 年 6 月 22 日
⑦Kazuto Suzuki, Regional Cooperation in Asia/Pacific Region, Space Policy in Latin-America and the Caribbean: Looking to the Future, Secretaría de Relaciones Exteriores (Mexico City, Mexico), 2009 年 11 月 4 日
⑧Ray A. Williamson, Nicolas Peter, Brian Weeden, Ben Baseley-Walker, Agnieszka Lukaszcyzk, Kazuto Suzuki, Report on the Status of Progress toward the Long-term Sustainability of Space Activities, 60th International Astronautical Congress, Daejong Convention Center (Daejong, South Korea), 2009 年 10 月 14 日
⑨Ciro Arévalo-Yepes, Annette Froelich, Peter Martinez, Nicolas Peter, Kazuto Suzuki, Towards a United Nations Space Policy, 60th International Astronautical Congress, Daejong Convention Center (Daejong, South Korea), 2009 年 10 月 13 日

⑩ Kazuto Suzuki, The EU: Regulatory Influence in the Global Market or "Regulatory Empire"?, The 21st World Congress of Political Science, International Political Science Association, Universidad Catorica (Santiago, Chile), 2009年7月13日
⑪鈴木一人、グローバル市場における多国間主義で文民的で経済的な勢力としての EU、EUIJ 早稲田　日・EU フレンドシップウィークシンポジウム、早稲田大学、2009 年 5 月 15 日
⑫Kazuto Suzuki, Is There a Space Race in Asia?: Different Perceptions for Space, The 11th Asia Security Conference, The Institute for Defense Studies and Analysis (New Delhi, India), 2009年2月3日
⑬Kazuto Suzuki, The role of International Organization for Fair and Responsible Use of Space, ESPI/IAA/SWF Conference on Fair and Responsible Use of Space: International Perspective, European Space Policy Institute (Vienna, Austria), 2008年11月21日
⑭鈴木一人、EU におけるテロ対処の枠組み、日本国際政治学会・部会 2、つくば国際会議場、2008年10月24日

〔図書〕(計7件)
①鈴木一人『宇宙開発と国際政治』岩波書店、2011年、298頁
②Kazuto Suzuki, The Role of International Organisations for the Fair and Responsible Use of Space, (Wolfgang Rathgeber, Kai-Uwe Schrogl, and Ray Williamson (eds.) The Fair and Responsible Use of Space: An International Perspective), SpringerWienNewYork, 2010年, 154-164
③鈴木一人、欧州連合（EU）－対テロ戦略は統合できるか？－(広瀬佳一・宮坂直史編『対テロ国際協力の構図：多国間連携の成果と課題』) ミネルヴァ書房、2010年、31-55
④Kazuto Suzuki, Is There a Space Race in Asia? Different Perceptions of Space, (N.S. Sisodia and S. Kalyanaraman (eds.) The Future of War and Peace in Asia), Magnum Books Pvt. Ltd., 2010年, 181-200
⑤鈴木一人、構成主義的政策決定過程分析としての「政策論理」(小野耕二編『構成主義的政治理論と比較政治』) ミネルヴァ書房（MINERVA 比較政治学叢書 2)、2009 年、245-275
⑥鈴木一人、ブレアとヨーロッパ 1997-2007年－「お節介なネオコン性」(細谷雄一編『イギリスとヨーロッパ：孤立と統合の二百年』)、勁草書房、2009年、299-326
⑦ Kazuto Suzuki, Basic Law for Space Activities: A New Space Policy for Japan for the 21st Century, (Kai-Uwe Schrogl, Charlotte Mathieu, Nicolas Peter (eds.) Yearbook on Space Policy 2006/2007), Springer Wien New York, 2008年, 225-238

６．研究組織
(1)研究代表者
鈴木　一人（SUZUKI KAZUTO）
北海道大学・大学院公共政策学連携研究部・准教授
研究者番号：60334025

(2)研究分担者　なし

(3)連携研究者　なし